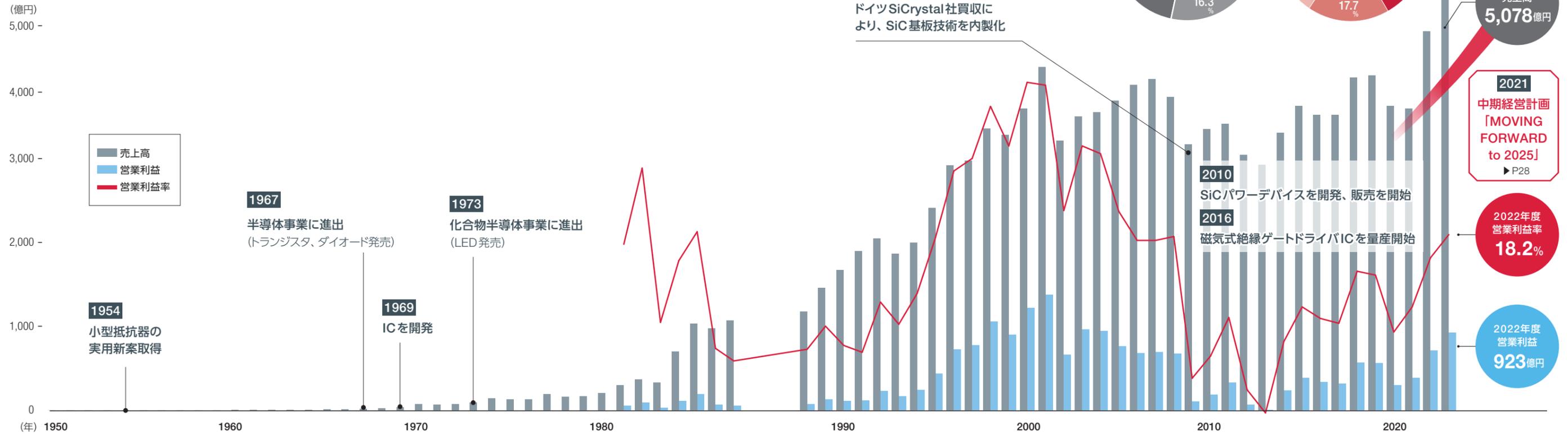


イノベーションの歴史

ロームは創業以来、品質第一を絶対とし、企業目的に基づき文化の進歩向上に貢献しながら事業領域を拡大してきました。今後も、これまで培ってきた強みを生かし、エレクトロニクスの技術でさまざまな課題を解決することで、未来に向けて、人々の豊かな暮らしと、持続的な社会の実現に貢献していきます。



Episode 1 日本初の小型抵抗器で電子部品の小型化を推進

ラジオ修理のアルバイトをしていた創業者の佐藤研一郎が、「修理だけではつまらない、自分でも何か作ってみたい」と考え、当時の真空管ラジオに欠かせない部品である抵抗器の開発に着手し、1954年に日本初の小型抵抗器「平行リード型固定抵抗器」を発売。トランジスタラジオのブームとともに売り上げを伸ばし、抵抗器の国内シェア60%を達成。

Episode 2 ICへの参入を通じたエレクトロニクスの技術革新への貢献

真空管からトランジスタ、トランジスタから集積回路へと、エレクトロニクス業界における技術革新に対応するため、半導体の研究・開発をスタート。莫大な投資を伴う半導体への進出は大きなリスクだったものの、全社一丸となり開発に取り組み、トランジスタ・ダイオードの商品化に成功。やがて、ICの開発にも成功し、日系顧客のデジタル機器向けにカスタマイズしたICの採用が大幅に増加。

Episode 3 次世代半導体材料の開発で省エネ・小型化に寄与

自動車・産業機器市場向けへのシフトを加速させ、グローバルでの顧客拡大のためにパワーデバイスの開発に注力。欧州最大のSiC単結晶ウエハメーカーのグループ化により、基板から金型、リードフレーム、パッケージの製造まですべてのプロセスをグループ内で開発し、安定供給を実現。世界で初めてSiC MOSFET及びフルSiCモジュールの量産を開始、自動車や産業機器などに広く採用されている。

Episode 4 パワー・アナログのソリューション提案で顧客の社会課題の解決に貢献

自動車や産業機器をはじめ、さまざまな機器や設備のスマート化や電動化により、機器や設備を安全に動かし、更なる省エネ化と小型化を実現するために、高度なパワーとアナログ技術を搭載した半導体が求められている。ロームでは、SiCデバイスを中心とした各種パワーデバイスの性能を最大限に引き出すアナログICを数多く開発しており、電流を検出するシャント抵抗器などの周辺部品も併せて、システムに合わせて最適なパフォーマンスを実現する製品を提供。